

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が住み慣れた地域で生活が継続できるよう、お一人お一人の生活環境を知ったうえで、日々の生活が楽しく過ごせるように、毎朝情報を共有している。	理念を分かりやすく、伝わりやすいようにと具体的な言葉として新しく作り変えている。利用者情報を共有する朝のミーティングでは管理者が理念について語り、理念の意識付けや実践につなげることから一日をスタートしている。新しく利用する方や家族にはパンフレットを渡し、理念を説明している。玄関には理念やホームとしての介護従事者の基本姿勢などを掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事にも参加し、日々の生活の中でも季節に応じた催し物を近所の方と楽しみながら行っている。	区費を納め、回覧板も廻っており、更に地区の寄り合いにも参加するなど地域の一軒として日々、ふれ合っている。管理者は地区集会所で行われた人権・教育懇談会で「認知症から考える」とのテーマで講師を務めている。施設の夏祭り、稲刈り、餅つきには地域住民の方が集まって来て、お手伝いや一緒に楽しんでいただいている。音楽療法ボランティアが定期的に来訪する他、ホームの行事に踊りなどで見えるグループもある。中学生の体験学習も毎年受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人に依頼され、管理者がグループホームでの生活の様子を紹介し、人権問題についても触れ、理解や協力をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に開催し、利用者さんの状況・行事や今後の予定などを報告し、評価や話し合いを行い、サービスの向上に役立てています。	今年度は家族、区長、民生委員、市担当職員等をメンバーに奇数月第4水曜日午後15時に予定している。最初の会議ではメンバーの交替もあつて施設の理念や方針を説明し、引き続き施設の運営や活動内容を報告、参加者から意見や助言、情報などを頂いた。地域との連携を深め、利用者が安心して暮らせるホームづくりに役立てたいと熱心に取り組んでいる。毎回、詳細に会議内容を記録しており、わかり易くファイリングされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	自然災害の避難場所や方法について相談し、指導いただいている。運営推進会議時、市職員より提案事項をいただいている。	昨年から続いている長野県北部を中心とした地震の件以外にも市担当者には色々な相談事に親身になって応じてもらっている。利用者の状況から災害時の避難場所は市と相談の上、市の支所か公民館となっており、実際に地震の時には避難し、地区の民生委員が心配して駆けつけてくれた。区分申請代行で担当窓口に出向いた時や介護認定更新時に調査員が来訪した時には本人の様子を伝えている。介護相談員は2ヶ月に一回、2名が来訪し利用者と話している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室は施錠していない。ミーティングや日々の申し送り時など、身体のみならず、言葉の対応についても拘束にならないよう点検している。	職員は身体拘束の内容や弊害、利用者の行動を制限するなどの具体的な行為を認識しており、対応や言葉等で利用者の自由な暮らしを束縛しないケアの実践に努めている。新規の利用者は3ヶ月ほど帰宅願望が見られたが適切なケアにより「何時迎えにくるのかな」「ここにいてもいいのかな」に変わり落ち着いている。拘束に関して会議などで日々のケアを振り返り意識づけが行われており、時には目線を変えて訪問看護師などを講師に勉強会を開いている。	

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で管理者が、職員に高齢者虐待防止について話し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	中野市介護支援専門員連絡会に参加し、そこで学んだ左記の内容を職員に伝達している。利用者さんについては、ケアプラン立案の際に相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、家族や利用者に分かりやすく説明し、不安や疑問があれば理解・納得されるまで、十分時間をかけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際は、気軽に意見や要望を言っていたり、心がけています。毎月、ふるさとだよりが発行され、家族に送付しています。	一人ひとりの生活の様子を綴った報告書とカラーA4版の「ふるさとだより」(利用者の写真入り)を毎月、家族に送っており、家族からは本人の近況が見えて安心と喜ばれている。家族は来訪時に要望を直接口頭で伝えている。家族の面会については地元の家族は週単位であるが遠方の家族は2ヶ月に一回程度となっている。利用者の殆どが言葉で自分の意思や思いを伝えることが出来、言葉では難しい場合は表情での意思確認手段を職員が把握している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングや活動の中で気が付いた点や、提案等気軽に職員が発言できる環境づくりに心がけている。	9時と16時半の引継ぎ後のミーティング、昼食後のカンファレンスと一日計3回、職員間での話し合いや意見を聞く機会を設けている。管理者は職員の表情や様子を見ながら声をかけ個別に話や相談を聞くこともある。管理者と職員には隔たりがなく気軽に意見交換できる関係で、楽しく仕事ができる職場だと職員はいきいきと働いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を定めているのはもちろん、職員の意見が柔軟に反映でき、やりがいの持てる職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受けられる機会を増やし、一人一人がスキルアップしていける環境作りに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月市の連絡会に、計画作成担当者は参加し、勉強しています。そこで得た情報はミーティングで報告しています。グループホーム連絡会では、当施設が当番になり、看取りの事例発表を行い交流しました。		

斑尾の森グループホームふると

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン立案時や困った様子がみられた際は、傾聴したり要望を聞くなどして利用者さんが笑顔で安心して生活できるよう心がけてます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の想い・困っていること・要望などを聞き、書きとめ、ケアプランに反映させ、良好な関係が築けるよう努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の想い、現在の状況を確認し、自立支援や役割、暮らし方などを探り、実現可能なものとなるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意向・気持ちを理解し、話しをしながら、家事や排せつ介助を行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際は、日頃の様子を口頭やビデオ、写真などで説明しています。言葉だけでなく、目で表情や動作や職員との関わりも見えるので安心されます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設に来たり、外泊したりして、知人や親せきの人との触れ合いはもちろんです、近くの畑でも立ち話ができるよう、外に出ることに努めています。	耳が不自由な利用者は家族とのやりとりを手紙でしている。民家改修型のホームであることからお孫さんと一緒に気軽に来訪する家族もいる。同級生が差し入れを持って面会に見えている。地元の小学校の記事が新聞に載った時、利用者の一人が「懐かしい」と学校に手紙を送ったところ小学生から返事が届き、訪問もあった。その後小学校の運動会や音楽会にも呼ばれるようになった。昨年お墓参りを切望し、家族とお墓参りをすることが出来た利用者がそれからの一週間を穏やかに過ごし、良い表情で最期を迎えられたという。家族に代わり運営者がお墓参りに付き添い、お墓の草取りやお参りもしている。利用後も利用者の馴染みの人や場との関係が継続できるよう利用者の思いを敏感に察知し支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者をよく理解し、個別に話を聴いたり、調整役となり、仲良く楽しく過ごせるように努めています。		

斑尾の森グループホームふると

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合も状態などを家族に聞いたり、相談にのったりするように心がけています。当施設で看取った利用者さんの家族とも関係が続いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン立案の際や日々の生活の中で意向を聞いたり、汲み取ったりして、支援・共同作業を行っています。困難な利用者さんに対しては、家族の意向を尊重し、職員で話し合いをし本人本位となるように心がけています。	利用者の多くは意思表示が可能であるが一部の方は表出が難しい。職員は利用者一人ひとりが意向や希望を表し易いように働きかけを毎日行っている。意思表示が困難な利用者については意思確認の方法を職員が把握しておりそのサインを見逃さないようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際の聞き取りだけでは不十分なので、日々の会話の内容を家族に確認しながら、利用者さんを理解し、馴染みの暮らし方・生活環境に近づけるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の担当者が利用者さんとの関わりの中で、身体的・精神的状態を把握し、必要な支援を行い、記録し夜勤者に申し送っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン立案の際は、本人の状態・意向・家族の意向を確認し、素案を作り、サービス担当者会議を行っています。修正したプランを本人に確認後、実施し評価しています。	介護計画は本人や家族の意向を基に計画作成担当者が他の職員と協議し作成している。援助目標を達成させるための具体的なサービス内容等を盛り込み、本人に説明し同意を得た上で家族に交付している。担当者会議を開きサービス内容の評価を行い、常に現状に即した計画にしている。利用者に対しその日の担当職員が決められており、業務報告書には介護計画の実施状況や日中の様子などを記録するようになっている。定期的な見直しも実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の担当者が個人記録にケアの実践や結果、気づきなどを記録し、夜勤者に申し送りをしています。夜間の様子は、当日勤務の職員全員に報告しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医師の訪問診療や訪問看護師による健康管理のほか、理髪や歯科医の往診など、必要なニーズに早期に対応しています。		

斑尾の森グループホームふると

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事などには近所の人にもお手伝いをお願いし、利用者さんが安全に楽しく参加できるようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療の際は、本人が医師にうまく伝えられないこともあるので、職員が間に入り伝えていきます。受診の際は、介護と医療の連携票を用いて、医師と連携するようにしています。	2週間に一回、協力医の往診がある。3割負担の利用者は緊急時のみ往診となっている。受診や通院の付き添いは家族に依頼しているが困難な時には職員が代行している。協力医や訪問看護師とは24時間連絡・相談が可能となっている。状態が変わった時には管理者が家族に連絡し、医師が病状説明を電話(遠方の家族に)や来訪した家族に説明するなど必要に応じ適切な医療が受けられるよう医療機関との協力関係が講じられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェック、排便の有無、尿の性状などや様子でいつもと違うときは、看護師に報告しています。看護師は医師に相談し、指示を実践しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、家族や医療機関との情報交換に努め、退院後の生活や処置などの方法を相談しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の医療の選択や看取りについて、入所の際や状態が変化した際に、家族に意向を確認しています。医師・訪問看護師・管理者・家族・職員等のチームで支援しています。	重度化した場合や終末期に関してホームの方針を契約時に説明している。本人の状態変化に合わせてその都度、主治医が家族に説明し意向を確認し、本人や家族が安心し納得した最期を迎えられるようチームで支援に取り組んでいる。亡くなる前、本人から「此処にいてもいいんかえ」と聞かれ、「いいんだよ」との言葉に安心した表情を見せた利用者もいたという。他の利用者からは「家に帰らないのか」、「何故、病院へ行かないのか」との声も上がったが、4名の利用者が家族や職員に看取られ、ホームで穏やかに最期を迎えている。看取りに関する指針書も作成されている。また、利用者の自己決定の証しとして「生前指示書」があり、判断のできる利用者や家族が書類を作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変(救急車が到着するまでの対処方法)については、ケースの想定をしながら、話し合いを繰り返し行っています。事故発生時も同様です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は、利用者さんと共に、避難訓練を行っています。つい先日7/10に震度5弱の地震があり、指定された避難場所へ行政の協力により避難しました。民生委員さんも心配し来訪していただきました。	年2回、消防署の指導の下、昼間想定通報、避難、消火器の扱い方などの訓練を行っている。利用者も避難訓練に参加している。独自に避難訓練を実施した時は緊迫感がなく避難にかなりの時間を要したが、7月10日の地震の時には5分程で避難出来、避難先には備蓄の水や食料品、介護用品、布団などを持ち込んだ。また、避難先に民生委員が来たことについては心強く感じており感謝している。屋内の壁や天井等に防災材での防火改修工事が行われ、消防車や救急車が地域を回りながら立ち寄り声をかけてくれている。	

斑尾の森グループホームふると

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関する事、尊厳に関する事は、居室で話したり対応しています。特に排せつに関する事は、気を付けています。	改めて利用者一人ひとりになんと呼ばれたいかを確認し、希望に沿って苗字や名前に「さん」をつけている。ホーム介護従業者の基本姿勢やスタッフ心得に尊厳のある生活支援が謳われ、守秘義務についての記載もあり、玄関に掲げられている。利用者一人ひとりがその人らしく暮せるようにどんな時でも誇りやプライバシーに留意しながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に優しい言葉遣いをするように心がけ、何でも話していただけるように努めています。傾聴することを大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんの意向や気持ちを尊重し、その人のペースで生活できるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際は、着たい服を選択していただき、身だしなみについても必要な時に、声掛け又は支援しています。化粧している利用者さんもいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんのできること、得意なことを生かしながら、安全に作業ができるよう支援しています。職員も一緒に会話し、食事や片づけを行っている。	食材の調達(畑や買出し)、料理の下ごしらえ、食後の片付けなど利用者の出来るところで職員と一緒にやっている。食堂とキッチンと同じスペースにあり煮物の匂いや揚げ物の音などを聞きながら待っている。食事は利用者の間に職員も座り料理の出来栄や暑さを話題にしながら和やかで賑やかな時間となっている。差し入れの地物スイカが食後のデザートとして付いていた。家族と外食に出かけた利用者がホームの食事の美味しさを度々話すほど評判が良いと伺った。畑では夏野菜を作り、田んぼではお米も作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の変化や身体の状態に応じて、食事の量を加減しています。水分量を測定し、脱水予防を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は、声掛けや見守りを行い、そうでない方は、毎食後義歯洗浄・口腔ケアを行い、肺炎の予防をしています。		

斑尾の森グループホームふると

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者さんの動きを敏感に察知し、自尊心を傷つけないよう、個々に応じた介助を行っています。おむつを使用されている方でもトイレで排泄していただいています。	利用者一人ひとりの排泄パターンや行動を職員は把握しており、個々に合わせた支援を行っている。オムツやリハビリパンツ、パット併用と一人ひとりに合わせながら排泄用品を使い分け、昼間はトイレでの排泄を行い、排泄の自立に向けた支援が行われている。夜間のみポータブルトイレを使う方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方は、牛乳やヨーグルト、十分な水分を摂取していただいています。医師に相談し、個々に適した下剤を服用していただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一番風呂は、皮膚トラブルのない利用者さんは交代で入っていただいています。利用者さんが入りたくない日は無理せず、翌日に入っていただいています。	お風呂は利用者が入りたい時に入れるように毎日準備し、一週間に2回以上入浴している。一日のおおまかなスケジュールを決めているため入浴は午前中としている。菖蒲湯、柚子湯などの季節のお風呂も楽しんでいる。日帰り温泉に出かけて温泉や料理を楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、散歩・リズム体操・歌を歌うなど活動的に過ごし、生活リズムを整えるよう支援しています。室温管理や掛け物調節も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人別にファイルしており、副作用や用法などが誰が見てもすぐ分かるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	人の役に立ちたい、出来ることはしたいと皆さんがおっしゃられます。利用者さんの性格や能力に合わせた家事や仕事を一緒に行っています。食事や散歩、行事なども楽しみの一つとなっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や近所の人の協力で、バラ公園へ行き、笑顔で帰宅しました。ほぼ毎日、40分くらい職員が付き添い、散歩して気分転換をしている利用者さんもいます。	行事外出では近隣の温泉施設やバラ園に出かけ、日常的には毎日散歩に出掛けている。春にはフキノトウなど山菜を採ったり花見をしたり、夏には木陰でお茶を飲んだり、秋には里山が色づくのを楽しむなど、居ながらにして四季の移り変わりを感じている。意思表示が難しい利用者も表情から読み取り、外気に触れる機会、季節を肌で感じる機会を設けている。	

斑尾の森グループホームふると

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族によって、金銭所持の意向が異なるため、本人の気持ちや意向を尊重し、家族と相談し決めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者さんの希望に応じて、常日頃電話や手紙が出せるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を改修した家で、落ち着くと皆さんがおっしゃられます。温度調節や季節の花を飾り、展示物を置き、居心地がいいように努めています。	屋内は全ての天井や壁が張り替えられて明るい雰囲気です。改修により廊下は少し狭くなったが支障なく生活できている。食堂には一人ひとりの願いを書いた短冊の下がった七夕飾りが見られた。窓の外には桃の木があり、田んぼや里山そして澄み切った夏空が広がり、居ながらにして四季を感じられる。ある利用者が「こんない所で暮せて幸せ」と繰り返し話していた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や居間は一体的な造りで、全てが視界に入りやすくなっています。テーブルや椅子の位置を考慮し、落ち着いてくつろげるように取り組んでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやタンス、ベッドなどは利用者さんが持ち込み、使い慣れた自分の部屋となるように、気を配っています。	家から持参した私物に囲まれながら畳やフローリングの床にベッドを置き、壁には本人の作品や写真を飾るなど、その人らしい居室となるよう工夫されている。二間続きの和室の一つには神棚があり、家族の承諾も得た上で日中は戸を開けて庭を眺められるようにし広々とした空間が出来ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体状況が変わった場合は、持参のベッドから介護用のベッドに変えています。自立を促し、かつ安全に生活できるスペースや環境づくりを心掛けています。		